

<私たちがいやすイエス様> マタイの福音書 8章 14-17節

◇イエス様の日常のお姿

17節『これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。』

ただ単に病気を癒したとか、あるいは不思議なことをしたというのではない。その人たちの病を負い、その人たちの苦しみを担い、その人たちの救い主としてご自分のいのちをかけて癒された。私たちの主、イエス様とはまさに預言されたこのことば通りの方であった。このことばが今私たちのうちに実を結んでいる。そのように福音書を書いたマタイは、イエス様のお姿を心によみがえらせている。神への喜びと感謝を込めて。

◇ペテロの姑の癒し

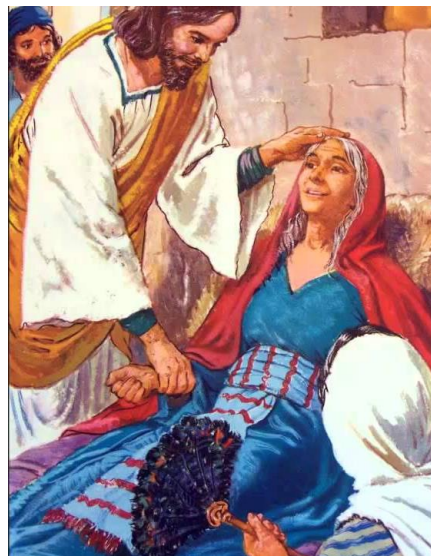
15節『彼女は起きてイエスをもてなした』

「もてなす」と訳された言葉は、この時一度だけもてなしたということではなく、繰り返しもてなすようになったという意味の言葉。他には、

「仕える」「奉仕する」の意味もある。

つまりこのペテロの姑は、癒されたことで一度だけもてなしをしたというのではなくて、癒されたこの時以来、生涯にわたってイエス様に仕え、奉仕する者となった。

これはただ単に病気が治った、癒されて良かったという話ではなく、新しく生きる自分の道をイエス・キリストのうちに見出した。それがイエス様の癒しの恵みの行きつくところ。この時以来、ペテロの家は主イエス様の働きの拠点となった。



◇苦難のしもべ

病み、悩み、疲れ果ててしまう、それが私たちの日常の姿。だからイエス様の日常はこうなる。人々の病と徹底的に向き合い、癒しをお与えになるために夜更けまで奮闘されるイエス様。そのお姿は、人々の病や罪を自分の身に負ってそのために苦しみを受け、ついには十字架の死に至る神のしもべとしてのお姿。このお方によって私たちは重荷を降ろし、休みを得ることができる。